

# 「共通事項」を考える（2）（小学校図画工作）

## ～ 第1学年及び第2学年 ～

今回の改訂で新設された「共通事項」について考えていきます。

まず、「共通事項」について、再確認しましょう。  
学習指導要領解説には、次のように書かれています。

表現及び鑑賞の各活動において、共通に必要な資質や能力を〔共通事項〕として示す。指導において、自分の感覚や活動を通して形や色、動きや奥行きなどの造形的な特徴をとらえ、これを基にイメージを持つことが十分に行われるようにする。

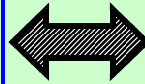
（小学校学習指導要領解説図画工作編 第1章総説 3 図画工作科改定の要点 (2)内容の改善 ウ共通事項の新設）

つまり、「共通事項」とは

### 「表現及び鑑賞の活動で共通に必要な資質や能力」

であり、具体的には次の2つの能力となります。これらは相互に関連し合っています。

（ア）児童が、見たり触ったり持ち上げたり動かしたりして、主体的・能動的に対象に関わり、造形的な特徴（形や色、線や面、動きや奥行き）をとらえる能力



（イ）造形的な特徴を基に、心の中に、像や全体的な感じ、情景、姿を思い浮かべるなどして、自分のイメージを持つ能力

※ 相互に関連とは、（ア）から引き続いて（イ）が発揮されたり、（イ）を基に（ア）の形や色をとらえたりするということです。

さらに、小学校学習指導要領解説図画工作編のP.19～20に、次のように詳しく書かれています。（要約）

- 共通事項は、表現及び鑑賞の活動の中で、共通に働いている資質や能力であり、造形活動や鑑賞活動を豊かにするための指導事項
- 形や色からくるイメージなどは、表現及び鑑賞の活動で発想や構想、創造的な技能、鑑賞などの能力を働かせる際の具体的な手がかり
- 「共通事項」が表現や鑑賞の領域の活動などの全体にかかわる事項
- 共通事項で示している内容は、対象に対して感性を働かせる児童の具体的な姿であるとともに、形や色、イメージなどを言葉のように使いながら生活や社会と豊かに関わるコミュニケーション能力の基盤となるもの

### 発達段階ごとの共通事項

学 年	（ア）	（イ）
第1学年及び第2学年	自分の感覚や活動を通して、形や色などをとらえること。	形や色などを基に、自分のイメージを持つこと。
第3学年及び第4学年	自分の感覚や活動を通して、形や色、組合せなどの感じをとらえること。	形や色などの感じを基に、自分のイメージを持つこと。
第5学年及び第6学年	自分の感覚や活動を通して、形や色、動きや奥行きなどの造形的な特徴をとらえること。	形や色などの造形的な特徴を基に、自分のイメージを持つこと。

## 第1学年及び第2学年の〔共通事項〕

- (1) 「A 表現」及び「B 鑑賞」の指導を通して、次の事項を指導する。
- ア 自分の感覚や活動を通して、形や色などをとらえること。
  - イ 形や色などを基に、自分のイメージを持つこと。

### 1 第1学年及び第2学年の児童の造形要素に対しての実態

- その子なりの感覚や気持ちを基に、大きさや長短など、大まかに身の回りの世界をとらえる傾向がある。
  - ※ 三角は概ね三角であれば三角であり、山やイチゴなども三角をとらえる。
  - ※ 自分の好きな色（例えば、赤）は他の色と区別されるが、自分の関心の無い色は区別が付きにくい。
- 世界を客観的にとらえることは難しく、自分の活動を通して世界をとらえている。
  - ※ 紙をねじって、その形や抵抗感を楽しむことに没頭する。
- イメージについては、自分の感覚や活動などを基にした直感的なものであり、どうしてそのようにイメージしたかを理由を伴って説明することは難しい。
  - ※ イチゴが整然と詰められている箱がきれいと感じる。
  - ※ ねじった形が何となく生き物のように見えておもしろい。

このような実態を踏まえて、次の〔共通事項〕を指導します。

「ア 自分の感覚や活動を通して、色や形などをとらえること。」について

これは、自分の感覚や活動を通して、大まかに形や色をとらえることです。具体的には、「見たり、触ったり（感覚）」、「石を並べたり積んだり（活動）」して、「形」、「線」、「色」、「質感」などをとらえること、といえます。

例えば、

- 黄色いものを見て幼稚園の帽子を思い出して「黄色（色）」をとらえる（認識する）。
- 河原でなめらかな球に近い形の石を触って、「球（形）」をとらえる（認識する）。
- 海岸で砂を手ですくい、「さらさらした手触り（質感）」をとらえる（認識する）。

### 指導のポイント

- 児童が関心をもっている形や色などを指導に反映させましょう。
  - 例えば、
    - ※ 児童が繰り返して用いている形を見とって指導に生かす。
    - ※ その児童がこだわっている色を指導に生かす。

### 留意点

この時期の児童には、色の名前や混色などの知識をあらかじめ学習させることは適切ではありません。活動や感覚を生かして造形の要素をとらえさせるようにしましょう。

「イ 形や色などを基に、自分のイメージをもつこと。」について

これは、自分の感覚や活動を通してとらえた形や色などを基に、児童が自分なりのイメージをもつことです。具体的には、自分の感覚や活動と一体となったイメージをもつこと、と言えます。

例えば、

- ピーンと伸ばした指先を見て、そこから先にまっすぐな線を想像し、その線を「ぐんぐん伸びている」とイメージする。
- はさみで勢いよく紙を切っているときに、はさみの進み方を「ぐいぐい進む」とイメージする。

#### 指導のポイント

- 児童がもっているイメージは何かを具体的に把握して指導に反映させましょう。  
例えば、

- ※ 児童の「つぶやき」を注意深く聴き、児童のイメージをとらえて指導に生かす。
- ※ 児童が描いた絵などから児童のイメージを読み取って指導に生かす。
- ※ 友人と一緒に活動しているときなどは、児童のイメージは次々に変化する。その変化の過程に着目して指導に生かす。

#### 留意点

- 児童が形や色をとらえたり、イメージを持ったりする時間を十分に確保しましょう。その際、児童のそれぞれの感じ方や個性を生かすようにしましょう。  
例えば、

- ※ 自然に手を動かしながら材料の形を確かめる時間
- ※ 箱を組み合わせながら何かを発想している時間

などです。



今回は、第3学年及び第4学年の「共通事項」について、具体的に考えていきたいと思えます。

10月18日（金）頃アップの予定です。